

# 付着生物(ユウレイボヤ等) ラーバ情報

平成29年2月1日～5日に陸奥湾3定点で付着生物(ユウレイボヤ等) ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

## 1 ラーバ等の出現数

### (1) キヌマトイガイ(コメガキ)

ラーバは、久栗坂沖で147.8個体/m<sup>3</sup>、小湊沖で70.0個体/m<sup>3</sup>、川内沖で176.6個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図2)。平成29年1月6日～同年2月1日まで久栗坂沖、川内沖で実施した付着基質調査でも付着が見られ、肉眼で見ることができたものがありました。

### (2) ムラサキイガイ

ラーバは、久栗坂沖で13.9個体/m<sup>3</sup>、小湊沖で8.8個体/m<sup>3</sup>、川内沖で18.0個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図3)。また、上記の付着基質調査では川内沖で付着が見られました。

### (3) その他

オベリア(クサ)のクラゲとユウレイボヤのラーバは見られませんでした。また、上記の付着基質調査では久栗坂沖でアミクサの小片が見られました。

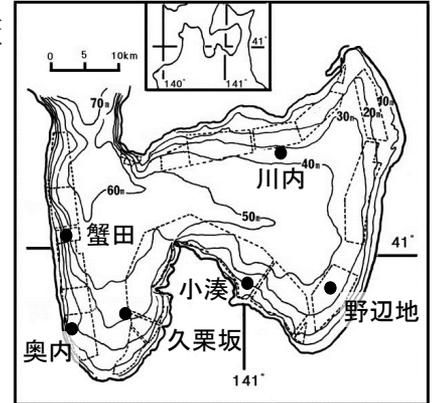


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現数

調査地点	調査月日	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ
久栗坂沖	H29.2.1	147.8	13.9
小湊沖	H29.2.5	70.0	8.8
川内沖	H29.2.1	176.6	18.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

単位: 個体/m<sup>3</sup>

## 2 水温の状況

各ブイ中層の2月8日の日平均水温は、表2のとおりで、西湾では8～9℃台、東湾では3～4℃台です。

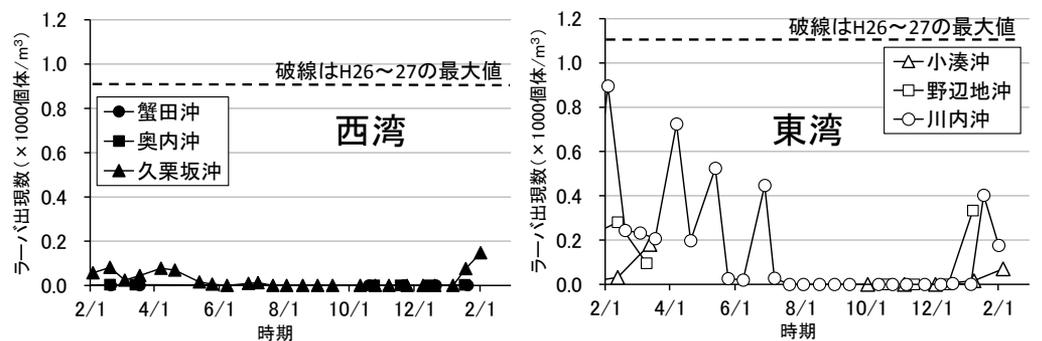


図2 キヌマトイ ラーバ 出現数の推移(平成28年2月～平成29年2月)

## 3 今後の見込み

### (1) キヌマトイガイ

ラーバは、久栗坂沖、小湊沖では昨年同時期より多く、川内沖では昨年同時期と同じように出現しているため、付着が進むと思われます。

### (2) ムラサキイガイ

3定点でのラーバ出現数は少ないため、春にかけての付着は少ないと思われます。

### (3) その他

秋の分散後におけるユウレイボヤのラーバ出現数は少なかったため、今春の出荷時には大型個体の付着は少ないと思われます。

今回、オベリア類のクラゲは見られませんでした。今後、春にかけて出現する可能性があります。

アミクサは寒天を固くする材料になっている紅藻(写真)です。久栗坂沖の付着基質調査で見られているので、パールネットに入り込んだアミクサの小片が生長し、夏にかけて繁茂する可能性があります。

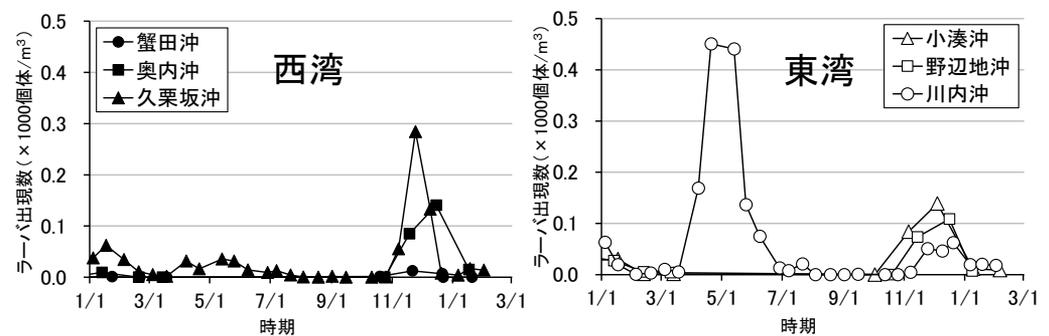


図3 ムラサキ ラーバ 出現数の推移(平成28年1月～平成29年2月)

表2 各ブイ中層の日平均水温

西湾観測地点	水温(℃)	東湾観測地点	水温(℃)
平館ブイ	9.7	東田沢ブイ	-
蓬田ブイ	9.2	野辺地ブイ	4.9
奥内ブイ	8.6	横浜ブイ	3.3
青森ブイ	8.6	浜奥内ブイ	3.4
浦田ブイ	-	川内ブイ	3.8
		東湾ブイ	4.5

※平館、青森、東湾は15m層、それ以外は10m層



写真 パールネットに繁茂したアミクサ(6月)

